

2024年3月29日(金)

セミナー他 | セミナー他

12:00 ~ 13:00 | B会場 萩

**[GW1] 学会主催ランチョンセミナー**

12:00 ~ 12:20

[GW1-01] はじめに

○横井 翔<sup>1</sup> (1. 農研機構・生物研)

12:20 ~ 12:40

[GW1-02] 海外で昆虫サンプルを取得・移転するときの対応-生物多様性条約/名古屋議定書/ABSの話-

○鈴木 睦昭<sup>1</sup> (1. 国立遺伝学研究所)

12:40 ~ 13:00

[GW1-03] 名古屋大学におけるABS対応と事例

○石川 綾子<sup>1</sup> (1. 名古屋大学)

2024年3月30日(土)

セミナー他 | セミナー他

12:00 ~ 13:00 | G会場 小会議室8

**[GW2] 技術士試験対策セミナー**

セミナー他 | セミナー他

13:30 ~ 15:00 | A会場 橋

**[SW] 特別小集会：ツマジロクサヨトウの発生実態と防除対策**

13:30 ~ 14:00

[SW-01] ツマジロクサヨトウが見せた長距離移動と飛来予測技術の開発

○大塚 彰<sup>1</sup> (1. 農研機構)

14:00 ~ 14:30

[SW-02] ツマジロクサヨトウの寄主作物と国内外における被害状況

○村田 未果<sup>1</sup> (1. 農研機構・植防研)

14:30 ~ 15:00

[SW-03] 青刈りトウモロコシ生産におけるツマジロクサヨトウ対策

○林 征幸<sup>1</sup>、加藤 直樹<sup>2</sup>、眞田 幸代<sup>3</sup> (1. (国研) 農研機構 九州沖縄農業研究センター、2. 農林水産省 農林水産技術会議事務局、3. (国研) 農研機構 植物防疫研究部門)

2024年3月31日(日)

セミナー他 | セミナー他

12:00 ~ 13:00 | C会場 白樺1

[GW3] JCPA農業工業会ランチョンセミナー

セミナー他 | セミナー他

2024年3月29日(金) 12:00 ~ 13:00 | B会場 萩

**[GW1] 学会主催ランチョンセミナー**

12:00 ~ 12:20

[GW1-01] はじめに

○横井 翔<sup>1</sup> (1. 農研機構・生物研)

---

12:20 ~ 12:40

[GW1-02] 海外で昆虫サンプルを取得・移転するときの対応-生物多様性条約/名古屋議定書/ABSの話-

○鈴木 睦昭<sup>1</sup> (1. 国立遺伝学研究所)

---

12:40 ~ 13:00

[GW1-03] 名古屋大学におけるABS対応と事例

○石川 綾子<sup>1</sup> (1. 名古屋大学)

---

セミナー他

## [GW1] 学会主催ランチョンセミナー

2024年3月29日(金) 12:00 ~ 13:00 B会場 (菽)

---

12:00 ~ 12:20

### [GW1-01]はじめに

○横井 翔<sup>1</sup> (1. 農研機構・生物研)

海外の遺伝資源を扱う上で ABS対応は避けて通れない問題である。

今年度も学会主催のもと ABSの専門家をお招きし、ABS対応の基礎から最新の情報までお話しいただく。特に最近「デジタル配列情報」( Digital Sequence Information: DSI )、いわゆる DNAシーケンス配列を含む)まで、ABS対応の範疇に含むかが本領域の重要になっている。本件についても最新の情報をご講演いただくと同時に、ABSの専門家と参加者の研究者との意見交換ができればと考える。

---

セミナー他

## [GW1] 学会主催ランチオンセミナー

2024年3月29日(金) 12:00 ~ 13:00 B会場 (萩)

---

12:20 ~ 12:40

### [GW1-02] 海外で昆虫サンプルを取得・移転するときの対応-生物多様性条約/名古屋議定書/ABSの話-

○鈴木 睦昭<sup>1</sup> (1. 国立遺伝学研究所)

海外で昆虫などの遺伝資源を取得したり、国外に移転するときには、それぞれの国の関連法規やルールを守り、必要な手続きを行い、許可を得る必要がある。これらの法令や手続きが必要になった背景には、生物多様性条約(Convention on Biodiversity : CBD)において決定された ( Access and Benefit-sharing: ABSや、名古屋議定書の発効(2014)が背景となっている。 ABSに対応するために研究の遅延が生じやすいが、遺伝資源提供国の法令を遵守することは避けて通れない。提供国の法規制遵守や、日本国内での ABS指針の遵守、関連条約法令の対応が必要である。本講演では、各国の法規制の整備状況を紹介するとともに、エクアドル、インド、インドネシア、マレーシア・サバ州でのトラブル事例や対応方法を紹介する。 ABS対応は、各国の法令が異なる、対応方法が不明瞭である、提供国の対応が遅く時間がかかるなどの課題がある、そのため、その対応には研究現場からの意見がとても重要である。今回、ABSに関する情報提供を行うとともに、皆様の意見をお聞きしたい。

---

セミナー他

## [GW1] 学会主催ランチオンセミナー

2024年3月29日(金) 12:00 ~ 13:00 B会場 (萩)

---

12:40 ~ 13:00

### [GW1-03]名古屋大学における ABS対応と事例

○石川 綾子<sup>1</sup> (1. 名古屋大学)

生物多様性条約（CBD）及び名古屋議定書では、研究者が海外生物サンプル等を利用し、現地において採取等を行う際には、相手国の ABS関連法規に従って許可の取得（PIC）や契約の締結（MAT）、提供国への利益配分（ABS）を行う必要がある。また、日本の ABS指針に従い環境省への報告手続き等が必要な場合もある。名古屋大学では、平成29年度に、ABSの体制構築を行い、チェックフロー等を定めて運用を行ってきた。講演者は名古屋大学の ABS実務者チームメンバー（URA）として、教職員から、国際的共同研究やプロジェクトでの相談対応として契約締結・PIC取得のための支援を行い、具体的ケースの ABS対応の支援を行う者である。本セミナーでは、名古屋大学での ABS対応のための体制構築時の検討事項について紹介する。また、相談対応での事例のうち、いくつかの実際の対応状況を紹介する。研究の現場での ABS対応において、実際的な課題や困難な点についても皆様と共有しながら議論をできればと考える。

セミナー他 | セミナー他

📅 2024年3月30日(土) 12:00 ~ 13:00 | 🏢 G会場 小会議室8

**[GW2] 技術士試験対策セミナー**

セミナー他 | セミナー他

2024年3月30日(土) 13:30 ~ 15:00 | A会場 橘

[SW] 特別小集会：ツマジロクサヨトウの発生実態と防除対策

13:30 ~ 14:00

[SW-01] ツマジロクサヨトウが見せた長距離移動と飛来予測技術の開発

○大塚 彰<sup>1</sup> (1. 農研機構)

---

14:00 ~ 14:30

[SW-02] ツマジロクサヨトウの寄主作物と国内外における被害状況

○村田 未果<sup>1</sup> (1. 農研機構・植防研)

---

14:30 ~ 15:00

[SW-03] 青刈りトウモロコシ生産におけるツマジロクサヨトウ対策

○林 征幸<sup>1</sup>、加藤 直樹<sup>2</sup>、眞田 幸代<sup>3</sup> (1. (国研) 農研機構 九州沖縄農業研究センター、2. 農林水産省 農林水産技術会議事務局、3. (国研) 農研機構 植物防疫研究部門)

セミナー他

**[SW] 特別小集会：ツマジロクサヨトウの発生実態と防除対策**

2024年3月30日(土) 13:30 ~ 15:00 A会場 (橘)

13:30 ~ 14:00

**[SW-01] ツマジロクサヨトウが見せた長距離移動と飛来予測技術の開発**○大塚 彰<sup>1</sup> (1. 農研機構)

ツマジロクサヨトウが日本で初確認された翌年、2020年度から2022年度までイノベーション創出強化研究推進事業（JP007097）「ツマジロクサヨトウの効率的な発生予察技術と防除対策技術の開発」が実施され、発生予察手法の開発、生態や天敵の解明、防除対策について様々な成果が得られた。その内、本特別小集会では本種の移動生態、寄主作物と発生実態、防除対策技術について紹介する。この発表では移動生態と飛来予測技術について解説する。本種は長距離移動性を示すとされていたが、アジア地域の分布拡大の速度は想像以上で、2018年夏にインドで確認されて以降、2018年12月中旬には中国南西部に到達し、2019年5月上旬までに長江下流域一帯で幼虫が確認された。さらに2019年5月下旬から6月上旬に海を越えて日本や韓国に飛来したと推定されており、本種の移動能力が極めて高いことを示した。2019年の冬季からは中国南部で周年発生するようになり、日本では東アジアモンスーンが西日本に吹き始める5月から主な飛来が始まるようになった。またこうした飛来を予測するために、イネウンカ類の飛来予測モデルを基礎として、ヨトウの飛翔速度や飛来地域域の情報を組み込んだツマジロクサヨトウの飛来予測手法を開発したので紹介する。

セミナー他

**[SW] 特別小集会：ツマジロクサヨトウの発生実態と防除対策**

2024年3月30日(土) 13:30 ~ 15:00 A会場 (橘)

14:00 ~ 14:30

**[SW-02] ツマジロクサヨトウの寄主作物と国内外における被害状況**○村田 未果<sup>1</sup> (1. 農研機構・植防研)

ツマジロクサヨトウはトウモロコシをはじめイネや牧草などのイネ科作物を加害することで知られており、国内では侵入した2019年にトウモロコシ、ソルガム、サトウキビで発生が確認された。しかしながら翌年以降、ショウガなどイネ科以外の作物でも報告され作目数が増加した。本種のような長距離移動性昆虫は地域によって摂食する作物が異なることがある。そこで、国内における寄主植物を把握するため、2019年夏から2022年初秋までの国内において本種が発生した植物について、47都道府県を対象にアンケート調査を行った。その結果、ローズグラス、ツノアイアシ、トランスバーラなどでも確認されたことが判明した。また、日本における作物の中で本種の発育に適したものを明らかにするため、イネ科、マメ科および野菜類の主要栽培品種を給餌した個体の発育や生存率を観察した。キュウリ葉では羽化個体は得られなかったが、サトウキビ、ソルガム、イタリアンライグラス、ネギ、レタス、キャベツ、チンゲンサイ、トマト、ピーマン、ナスの葉ではいずれも発育を完了した。以上から、国内に侵入したツマジロクサヨトウにおいてはイネ科以外の多くの作物も好適な餌植物であることが示唆された。発表では海外における寄主植物についても合わせて紹介する。

---

セミナー他

## [SW] 特別小集会：ツマジロクサヨトウの発生実態と防除対策

2024年3月30日(土) 13:30 ~ 15:00 A会場 (橘)

---

14:30 ~ 15:00

### [SW-03]青刈りトウモロコシ生産におけるツマジロクサヨトウ対策

○林 征幸<sup>1</sup>、加藤 直樹<sup>2</sup>、眞田 幸代<sup>3</sup> (1. (国研) 農研機構 九州沖縄農業研究センター、2. 農林水産省 農林水産技術会議事務局、3. (国研) 農研機構 植物防疫研究部門)

ツマジロクサヨトウ (FAW) は広食性の害虫だが、特にトウモロコシを好んで加害することが報告されている。国内では殺虫剤が散布されることの少ない、青刈りトウモロコシでの被害が予想されることから、青刈りトウモロコシを対象に、九州での被害状況や、収量への影響について調査を行った。また、FAWの有効な防除体系を検討した。夏期に播種する作型 (夏播き) において殺虫剤を定期的に散布する防除区と、防除を行わない無防除区とで収量を比較したところ、無防除区の収量は防除区よりも17%低下しており、防除が必要と考えられた。次に、FAWの防除に有効な体系を検討するため、殺虫剤の散布時期や回数について、複数年の試験で検討した。その結果、生育前半に1~2回の登録薬剤による防除を実施することで、乾物収量への影響を軽減できる事が明らかになった。以上から、FAW発生状況に応じて生育前半に1~2回の薬剤防除を実施することが青刈りトウモロコシでのFAW被害軽減に有効と考えられる。

セミナー他 | セミナー他

📅 2024年3月31日(日) 12:00 ~ 13:00 | 📍 C会場 白檀1  
[GW3] JCPA農薬工業会ランチョンセミナー